

特集「マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO2006)」の編集にあたって

服 部 進 実†

21世紀とともに、ユビキタス情報環境が整い始め、さまざまな場所において多様な方法で情報の受発信が可能となってきている。また、高速ネットワーク基盤として光ファイバなどが普及し、一般家庭においても、有線に加え無線 LAN を組み合わせたネットワーク環境が整ってきている。それにともないより上位レイアを含めた革新的なネットワーク技術や IT サービスの重要性が高まってきている。DICOMO は、平成 9 年度に「マルチメディア通信と分散処理研究会、グループウェア研究会（平成 13 年度から「グループウェアとネットワークサービス研究会」に名称変更）と、モバイルコンピューティング研究会（平成 12 年度から「モバイルコンピューティングとワイヤレス研究会」に名称変更）」の 3 研究会の共催により、北海道ニセコにて第 1 回のワークショップを開催した。

その後、平成 10 年度は、ワークショップからシンポジウムに変更して、鹿児島指宿にて開催、平成 11 年度は、南紀白浜にて、平成 12 年度は加賀市山代温泉にて、平成 13 年度には鳴門市にて、平成 14 年度は西伊豆土肥温泉にて、平成 15 年度は阿寒湖にて、平成 16 年度は長崎県雲仙にて、平成 17 年度は、花巻温泉にて開催し、そのつど関連する研究会が共催に加わった。

平成 18 年度は、DICOMO2006 シンポジウムとして、「マルチメディア通信と分散処理研究会」、「グループウェアとネットワークサービス研究会」、「モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会」、「分散システム/インターネット運用技術研究会」、「高度交通システム研究会」、「高品質インターネット研究会」、「コンピュータセキュリティ研究会」、「ユビキタスコンピューティング研究会」の 8 つの研究会が共催し、「電子化知的財産・社会基盤 (EIP)」、「放送コンピューティング」研究グループ、が協賛して、香川県琴平温泉にて開催された。その結果、発表論文が 247 件におよび、日夜活発な発表と議論が交わされた。

DICOMO2004 より、推薦論文を機関論文誌の DICOMO 特集号として発行を行っている。DICOMO 2006 においてもこれを踏襲し、機関論文誌の特集号として、「DICOMO2006」を発行することを企画提案し、

論文誌編集委員会で承認されたものである。本特集号の編集経緯は以下のとおりであり、DICOMO2006 の全発表論文より優秀論文の選出を行い、再度通常の論文誌と同じ手順で審査プロセスを実施した。第 1 回論文誌編集委員会：2006 年 8 月 19 日、投稿締切：同年 10 月 31 日、第 2 回論文誌編集委員会：同年 12 月 18 日、第 3 回論文誌編集委員会：2007 年 3 月 19 日。優秀論文として推薦した論文の中から 22 編の投稿があり、審査の過程で 1 編の取り下げがあったが、最終的に 19 編の優秀な論文が採録されたと考えている。採録された論文とそのテーマ分野としては、無線モバイルネットワーク 9 編、ネットワークセキュリティ 3 編、ネットワークプロトコル 3 編、ミドルウェア 2 編、ネットワークサービス 2 編であった。

最後に、本特集号が、ユビキタス情報社会を支える技術の発展に貢献すれば幸いである。また、多数の優れた論文を投稿いただいた方々、短い期間での査読をお願いし快くひきうけていただいた査読者・メタレビュアーの方々に感謝致します。

「マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO 2006)」特集編集委員会

- 編集長
服部 進実 (金沢工業大)
- 編集委員
水野忠則 (静岡大)、岡田謙一 (慶應義塾大)、小花貞夫 (ATR)、鈴木健二 (電気通信大)、高橋 修 (はこだて未来大)、勅使河原可海 (創価大)、東野輝夫 (大阪大)、加藤由花 (産業技術大学院大)、新井克也 (NTT)、北口善明 (インテック・ネットコア)、河口信夫 (名古屋大)、山口弘純 (大阪大)、宇田隆哉 (東京工科大)、児島史秀 (情報通信研究機構)、砂原秀樹 (奈良先端科学技術大学院大)、今野 将 (東北大)、阿倍博信 (三菱電機)、岸上順一 (NTT)、藤野信次 (富士通研究所)、柏谷篤 (日本電気)、垂水浩幸 (香川大)、塚本昌彦 (神戸大)、中沢 実 (金沢工業大)

† 金沢工業大学